



■「2019年国際協議会が開催されました」

2019年1月13日から19日まで、アメリカのサンディエゴで国際協議会が開催されました。この3月号がお手元に届くころは、各地区のガバナーエレクトは国際協議会での成果を新年度に生かすべく、PETSや地区研修・協議会の準備に大わらわでしよう。

2019年は3年ごとに開催される規定審議会の年でもあります。2016年の規定審議会では、「柔軟性」のキーワードの下、例会の開催頻度や態様、そして出席について決める「例会と出席」、会員の入会資格を決める「会員身分」、この二つのカテゴリーにおいて、それぞれのクラブ細則で決めれば標準ロータリークラブ定款に反していても細則の方が優先するという、まさに驚きの改正がなされたことはまだに記憶に新しいところで。「柔軟性」を実現したクラブはどの程度あるのでしょうか。また、その成果は上がっているのでしょうか。

2019年国際協議会で国際ロータリーのジョン・ヒューコ事務総長は「革新性と柔軟性」というテーマで講演し、「ロータリークラブが将来どのようになっているか、少し想像してみてください。」「あまり深く想像力を働かせる必要はありません。このようなクラブは既に存在していますから。」として、「家族も気軽に参加でき、移動型の例会時間と例会場所を採用したクラブ、「組織的に地元のローターアクトクラブとインターアクトクラブを活動に参加させる」ようにしたクラブを紹介しています。さらには「パスポートクラブ」という新しいコンセプトのクラブを紹介し、このクラブでは例会を開くのは年間僅かに6回で、オプションとして例会がない月に交流行事を開いているということです(このクラブでは財団に毎年1000ドル寄付するか、ロータリークラブや地区内のNPOと一緒に少なくとも40時間の社会奉仕を行わねばならないそうです。)

「柔軟性」は一面では既に世界標準になっているということでしょうか。もしそうであれば、それが既存のロータリークラブの活性化にどの程度の成果をもたらしたかについて、もっと実証性のあるデータを示してほしいと思います。そして是非とも先端的な実践をしているクラブの会長や幹事の考えを聞きたいものです。地区やゾーンで希望者を募り、新しい試みを実践しているクラブの訪問ツアーを企画するのも一案かもしれません。

ガバナーエレクトは、今、ロータリーの最も新しい情報に接した存在でしょう。彼ら彼女らは新年度に向けて新しいコンセプトで会員を鼓舞し、クラブを元気にすることを任務としています。私たちコーディネーターは今後ともその手助けをし、ロータリーの発展のために役立ちたいと考えています。

第3ゾーンロータリーコーディネーター補佐
滝澤 功治(神戸須磨RC)

■「日本人の幅広い年代に対するロータリーの広報と放たれたインスピレーションを受けた人々のロータリーへの参加」

およそ1世紀も増加してきた日本人の人口が一昨年よりついに減り始めました。その一方で現在65歳以上の人口は全体の27.7%を占めるため超高齢化社会となっています。いわゆる「少子高齢化」「人口減少社会」に日本ロータリーが立ち向かっていくためには短期的・長期的観点から日本人の幅広い年代に対する広報を行い、また放たれたインスピレーションを受けた人々のロータリーへの参加を促さなければいけません。2017年6月開催のRI理事会・財団管理委員会合同会議において「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。」と言う新しいビジョン声明が採択されました。集まった人々はその理念を基本として末永く変化をもたらすための行動を起こす「世界を変える行動人」ひいては「地域社会を変える行動人」としてより幅広い年代層にインスピレーションを送り届けて革新・柔軟性のある広報を務めることによりロータリーのブランディングを高めるように努力しなければいけません。ロータリーの認知度をさらに向上させる事がロータリークラブの会員になる事の魅力を高めさらにクラブとの深い関係性、絆を形成することに繋がってきます。今私の身の回りで行っていることを紹介しましょう。その一つは私達が製作したアニメ「おしえてロータリー英語字幕Ver」について本編への導入ストーリーを付加して今までは受動的に見ていたのを見ていただくようにリメイクしました。幼稚園～80歳位までの一般の方々にもこのアニメを見ていただく機会を作り、公共イメージの向上会員増強の一助となるように働きかけています。もう一つは最近において年会費7万円の新型衛星クラブを立ち上げました。これは既存のロータリークラブのサブクラブとして運営していく次世代のクラブでリアルクラブ+オンライン衛星クラブの組み合わせになっています。従来の衛星クラブのような移行形態という考え方にとらわれず発想の転換で衛星クラブ会員と親クラブ会員との間に多機能化した要素を持たせています。対象年齢層は若い世代から誇りを持った終末期(在宅、老人福祉施設、ホスピス)までとし、キャッチフレーズは「やめる機会を失うクラブ」「やめるチャンスは末期の水」です！各地区で参考になれば幸いです。

第3ゾーンロータリー公共イメージコーディネーター補佐
前田 直俊(坂出東RC)